

森からのお手紙

15号
2025

Topics

森のこよみ
お客様物語 齊藤俊行さん



お一人おひとりの人生が異なるように、お墓の選び方も実にさまざま。

その想いや考えを、お届けします。

お客様物語

第15回

今回のお客様 齊藤俊行さん



ここ、森の墓苑と同じ千葉県長南町にお住まいの齊藤俊行さんは、もともと福島のご出身です。家族を持ち埼玉のマンションで暮らしていましたが、2人の男のお子さんがまだ小さかったころ、のびのびと子育てをしたいと、長南町に移住してきたそうです。東日本大震災でご実家が被災したのを機に

的な霊園とは違うため、開苑しているようには思えなかったとか。「ウェブの写真を見て気持ちよさそうだなと思ったのと、そこで初めて読んだコンセプトに、とても素敵だなと共感しました」。

見学はお母様、奥様、2人のお子さんみんなで行きました。季節は7月で緑がいっぱいでした。

「普通の墓地は、道がアスファルトで固められ、コンクリートでつくられた区画に墓石が並んでいるので、なんだか冷たい感じがして『ここに入るのか』と一瞬思ってしまうのですが、森の墓苑の景色を見た時、これは父が喜んでくれると、明るい気持ちになりました。それは見に行った家族みんながそう感じたと思います。すぐに決めました」

選んだ場所は個別墓びりのD-51番。郷里の福島の実家近くは昔、蒸気機関車が走っていました。お母様と一緒に『デゴイチ（D51形蒸気機関車）だね』と言って選びました。

長南町に移り住んでから庭いじりを趣味としているお母様

ご両親を近くに呼び寄せ、墓じまいも済ませました。

お父様が亡くなられ、近隣の霊園に納骨しようと計画を進めていたものの、たまたまウェブサイトで検索した森の墓苑に行き当たりました。車で数分程度という近所に住んでいるため看板も見ることがありましたが、入り口の雰囲気は一般

は、ほぼ一年中何かしらの花が見られるように手入れをし、お参りの際は季節の花を手向けています。森の墓苑の自然いっぱいの雰囲気には、こうした野草がとてもよく似合うと喜んでいるそうです。実は、最初に個別墓に植えた木がすぐ枯れてしまったので、お父様が好きだったムラサキシキブに植替えをしました。今も苗木は、お父様のお墓のシンボルとして、元気に育っています。

「妻も長南町へ越してから畑仕事を楽しみ、子どもたちもここですくすく成長し、手がかからない年齢になりました。私たち家族の長南町に対する愛着は深いです。そして偶然こんな近くで、父を自然に還すことができるのが嬉しいです。森の墓苑は自分の庭の延長のような安心感があり、温かい気持ちになれる場所です」。

森からのお手紙 15号 2025 発行：(公財)日本生態系協会





草笛体験



自然観察



苔テラリウムづくり



植樹草会



植樹草会2025

今年の森と草はらづくりは、天気にも恵まれ、ウグイスのさえずりが響くなか、地元の方や初めての方にも多くご参加いただきました。生きもの調査研究の専門職員と一緒に草笛を鳴らし、春の香りや生きものの賑わう苑内を自然観察。四季折々の草木がゆたかな森となるよう、地域に自生する樹木の苗木の植え付けや、ツクサやチガヤなど野草の種をまきました。地元食材のお弁当のあとは、「苔テラリウム」づくりに挑戦。落ち葉や木の枝、どんぐりなどを使い、ボトルにそれぞれの森を描き、想いがつまった素敵な作品ができました。



トウキョウサンショウウオ



トウキョウサンショウウオの放流

墓苑で実習を行っている学生たちが、3月に卵を採取して2〜4cmに成長した250匹をもとの池に放流しました。この取り組みは県の最重要保護生物が減らないように行っている対策です。池と学校の水槽の水温を毎日同じ程度に保ち、個体の飼育密度や餌やりなどに気を付けた結果、例年よりも多くの幼体を育てることができました。今後、より多くの生きものたちが戻って来るよう、環境づくりを進めます。

お盆・お彼岸 8月9日(土)〜17日(日)、9月20日(土)〜26日(金)は毎日開苑しています。

【開苑時間】10〜16時 月曜定休(月曜日が祝祭日の場合は開苑)
【お問い合わせ】電話 0120-9011580(全日9時〜18時)

◆見学やお墓参りについて◆ご来苑の際は、スタッフ不在の場合がありますので、前日までにご連絡ください。
スマートフォンアプリ「LINE」のビデオ通話を使用したりモート現地見学も承ります。

◆出張説明◆ご自宅や団体・企業での説明会も承りますので、ご依頼ください。